

2018 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	教授	水野 伸子
最終学歴	学 位	専門分野
放送大学大学院修了、 京都市立芸術大学大学院博士(後期)課程在籍	修士	音楽教育学・音楽心理学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

授業の目的と理解の程を自分で把握できる自作のワークシートを毎時に配布し、学生一人ひとりが目的意識を持って授業に臨み、授業の内容及び達成度のわかりやすい授業を目指す。

また、そのワークシートは毎授業後に集め、一人ひとりの学修状況を確認し、必要な場合は、励ましたり助言を書き入れて渡し、授業意欲の維持を目指す。

(計画)

全体的には、基礎から応用へと段階を経て内容を計画する。演習科目では毎時、机上の学習と実践学習（演奏・音楽作り等）を両方組み込み、集中できる時間を効果的に用いる。また実践では、仲間の前で自分の表現を臆することなく表せ、皆と協力して音楽作りや演奏表現できる能力を育成する。

○担当科目（前期・後期）

（前期）音楽Ⅰ、保育内容（音楽表現）、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ

（後期）音楽表現技術、音楽科教育法、音楽Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ

○教育方法の実践

アクティブラーニング、グループディスカッション、グループワーク等を取り入れた。

○作成した教科書・教材

保育内容（音楽表現）・音楽科教育法において、毎授業ごとに学生のワークシートを作成した。

○自己評価

本学で勤務する初年度であり、学生の学修実態に即した授業内容の構成に向けて試行錯誤の連続であったが、概ね、目標を達成することができた。

II 研究活動

○研究課題

- ・ 音楽的発達と音楽的文化化と観点から幼児期のリズム感の発達を明らかにする。
- ・ 人の音楽同期の現象を科学的に究明する。

○目標・計画

(目標)

- ・ 昨年、リズム実験を実施したD幼稚園での実験結果を分析し児童や成人の結果と比較検討する。
- ・ 同期のシステムを明らかにするためのピアノ演奏データ記録装置の開発を行う。

(計画)

- ・ 科研費助成による研究が最終年となるため、結果をまとめ9月末までにまとめ学会で発表する。
- ・ 研究チームと定期的に研究会を開き、装置の作動実験を実施しながら開発を進める。

○2011年4月から2019年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・横井志保, 水野伸子, 他『表現（新・保育実践を支える）』福村出版、2018年、pp. 81-87（学術論文）
- ・石井玲子, 水野伸子 他『実践しながら学ぶ子どもの音楽表現』保育出版社、2013年、pp. 96-97, 101-104

（学術論文）

- ・水野伸子・津崎 実「幼児期における拍知覚の発達：同期度による検討」日本音楽知覚認知学会平成30年度秋季研究発表会資料、pp. 78-81、2018年度
- ・水野伸子「生演奏とDVD再生演奏による音楽聴取時における手拍子同期の解析比較」（査読付）音楽教育学第47巻第2号（日本音楽教育学会）、pp. 13-24、2017年度
- ・水野伸子「「9歳の壁」論と学童期における音楽的発達との関連—音楽聴取時の手拍子解析から—」（査読付）同朋大学論叢第101号、pp. 21-40、2016年度
- ・水野伸子「生演奏とDVD再生演奏による音楽の内容の知覚感受比較—鑑賞後に実施したアンケートから—」（査読付）同朋福祉第22号、pp. 93-107、2015年度
- ・水野伸子・安藤久夫・吉田昌春「児童の音楽的拍感の獲得—授業行動分析装置改良に伴う手拍子情報直接取得により—」（査読付）岐阜女子大学紀要第44号、pp. 53-61、2014年度
- ・水野伸子「児童の西洋的リズム感覚における発達の検討—8ビート、シンコペーションに着目して—」岐阜女子大学初等教育学研究報告vol. 3、pp. 25-30、2013年度
- ・水野伸子「教師の捉える現代の子どものリズム感とその指導」（査読付）岐阜女子大学紀要第43号、pp. 53-61、2013年度
- ・水野伸子「音楽鑑賞時の手拍子反応にみる幼児の音楽理解」日本教育工学会研究報告集JSET12-3、pp. 153-160、2012年度
- ・水野伸子「コード伴奏を自ら弾き歌いする能力の育成—ピアノ伴奏法初級テキストの改善—」岐阜女子大学初等教育学研究報告vol. 2、pp. 29-38、2012年度
- ・水野伸子「音楽聴取反応分析への転用における授業行動分析装置の有効性の検討及び改良について」（査読付）岐阜女子大学紀要第42号、pp. 21-28、2012年度
- ・水野伸子「調性感・ハーモニー感の獲得による幼児の音楽理解」Open Forum 放送大学大学院教育研究成果報告書、pp. 48-53、2012年度
- ・水野伸子「音楽文化の中で培われる日本人の調性感・ハーモニー感」初等教育学研究報告等vol. 1、pp. 41-52、2011年度
- ・水野伸子「幼児期の音楽理解—鑑賞時の身体反応に注目して—」学校音楽教育研究（日本学校音楽教育実践学会）「第16巻」（pp. 173-174）、2011年度
- ・水野伸子「4歳児における音楽理解—リズム的体制化の過程—」（査読付）岐阜女子大学紀要第41号、pp. 61-67、2011年度

（学会発表）

- ・水野伸子「「幼児期における拍の知覚発達—音楽聴取時の手拍子同期度による検討—」日本音楽教育学会第48回大会（岡山大学）、2018年度
- ・水野伸子・津崎実「幼児期における拍知覚の発達：同期度による検討」日本音楽知覚認知学会平成30年度秋季研究発表会（龍谷大学）
- ・水野伸子・植田恵理子・寄ゆかり・本多峰和「アクティブ・ラーニングの導入には何が必要か—音楽表現活動の可能性—」日本保育学会第69回大会（東京学芸大学）、2016年度

- Nobuko Mizuno, Musical Enculturation through the Acquisition of Key and Harmonic Knowledge in Japanese Preschool Children The 17 PECERA Annual Conference 2016 (Pacific Early Childhood Education Research Association) (Chulalongkorn University, Ba
- 水野伸子・安藤久夫・吉田昌春・福本徹「タッピングと手拍子による音楽同期反応の解析比較」日本教育工学会第 32 回全国大会(大阪大学)、2016 年度
- 水野伸子「幼児の調性感・ハーモニー感獲得にみる音楽的文化」日本音楽教育学会第 47 回大会(横浜国立大学)、2016 年度
- Nobuko Mizuno, The Study on the Acquisition of Musical Perception of Beat among Japanese Children PECERA2015 16th Annual Conference (Pacific Early Childhood Education Research Association) (Macquarie University, Sydney, Australia)
- 水野伸子, 安藤久夫, 吉田昌春, 福本徹「生演奏と DVD 再生演奏時における手拍子の解析」日本教育工学会第 31 回全国大会(電気通信大学)、2015 年度
- 水野伸子「異なる演奏形態における音楽の内容の知覚感受比較—生演奏と DVD 再生演奏に注目して—」日本音楽教育学会第 45 回大会(シーガイアコンベンションセンター)、2015 年度
- 水野伸子「生演奏と記録媒体における音楽の知覚感受比較」同朋学会 2015 年度学術大会(同朋大学)
- 水野伸子・安藤久夫・福本徹「同期反応による児童の音楽的拍感の分析」日本教育工学会第 30 回全国大会(岐阜大学)、2014 年度
- 水野伸子「児童期における拍感の獲得過程—音楽鑑賞時に発生する手拍子の解析から—」日本音楽教育学会(聖心女子大学)、2014 年度
- 水野伸子「手拍子分析にみる音楽的発達の質的転換「9 歳の壁」日本音楽教育学会東海地区例会(愛知教育大学)、2014 年度
- 水野伸子・安藤久夫・福本徹「幼児の音楽的拍感覚にみるピアジェの直観的思考」日本教育工学会第 29 回全国大会(秋田大学)、2013 年度
- 水野伸子「幼児期における音楽理解の発達—リズム的体制化に着目して—」日本保育学会第 65 回大会(東京家政大学)、2012 年度
- 水野伸子「音楽鑑賞時の手拍子反応にみる幼児の音楽理解」日本教育工学会研究会(京都大学)、2012 年度
- 水野伸子・安藤久夫「行動分析装置を用いた幼児の音楽理解の発達の検討」日本教育工学会第 28 回全国大会(長崎大学)、2012 年度
- 水野伸子「4 歳児における音楽理解—リズム的体制化の過程—」日本保育学会第 64 回大会(玉川大学)、2011 年度
- 水野伸子「幼児期の音楽理解—鑑賞時の身体反応に着目して—」日本学校音楽教育実践学会第 16 回大会(花園大学)、2011 年度

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

- 2013-2015 年度科学研究費補助金 基盤研究 C「音楽的発達と音楽的文化化の観点から検討した小学校のリズム指導カリキュラムの開発」(課題番号:25381219, 研究代表: 水野伸子)
- 2016-2018 年度科学研究費補助金 基盤研究 C「音楽的発達と音楽的文化化の観点から検討した幼小連携リズム指導カリキュラムの開発」(課題番号:16K04176, 研究代表: 水野伸子)

○所属学会

日本音楽知覚認知学会、日本音楽教育学会、日本学校音楽教育実践学会、日本教育工学会、保育学会

○自己評価

科学研究費補助金の助成により研究資金を得られたことで、音楽リズム実験を3歳児から小学生6年生まで実施できたこと、およびその実験遂行にあたり工学系研究者からの支援を得られたことが、研究を大きく発展させることができた。目標は概ね達成された。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

研究活動委員会・入試委員会のメンバーとして、活動の内容を理解し精励する

(計画)

研究活動委員会の仕事としては、5月には研究論文の校閲、6月以降には投稿規程等の見直しを行う予定である。入試委員会の仕事としては年間通しての入試業務を行う。特に、今年度より始める「自己ピアール入試」において、意欲のある学生の入学増加に向け具体的な内容を検討する。

○学内委員等

研究活動委員会委員、入試委員会委員、幼小教職委員会委員、保育士養成課程委員会委員

○自己評価

研究活動委員会委員として、大学研究紀要が来年度よりリポジトリ化されるため、その整備、および紀要原稿の校閲を行い、本学の研究活動が向上するよう努力した。入試委員として、AO入試、推薦入試等の面接を行い、大学で勉学に励もうとする意識のある学生の入学に力を注いだ。目標は概ね達成された。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

幼児の発達に応じた音楽の楽しみ方を、保育園や幼稚園等で行う出前コンサート「音で遊ぼう～わいわいコンサート」や、保護者向けの講話「音楽の窓から覗いた幼児の発達」等で、広く知ってもらおう。

(計画)

従来より実践してきており、園側からの依頼に応じて行う。

○学会活動等

特になし

○地域連携・社会貢献等

- ・水野伸子「音で遊ぼう～わいわいコンサート」羽島市発達支援センター「発達教室もも」、一宮市立富士保育園にて公演
- ・水野伸子「一宮市教養講座：みんなで歌おう」一宮市高年福祉課主催
- ・水野伸子「子どもはリズムでぐんぐん育つ」(講演)同朋幼稚園

○自己評価

回数は多くはないが、保護者や保育者向けの講演が増え、自身の研究してきた内容を社会へ還元できる機会を得た。目標は概ね達成された。

V その他の特記事項 (学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等)

京都市立芸術大学大学院 音楽研究科 博士（後期）課程 の1回生として、音楽心理学の研究を行なった。

VI 総括

2018年度は、愛知東邦大学赴任して初年度であり、授業では学生の実態を理解しそれに即した指導をしていくことを最大の目標に掲げ、努力した。授業評価アンケートから推察する限りでは、学生から一定の評価を得た。学生一人ひとりが授業に対する意欲を持ち、授業の中で成長感・達成感を得られ、教員から（友達からも含め）認められている満足感を感じられる授業を目指し、継続して努力する。

研究活動では、科研費の助成による研究が最終年度を迎え研究のまとめの段階に入った。幼児の音楽的発達研究において一定の成果を出すことができた。

大学運営においては、研究活動委員会と入試委員会という大学の研究分野を支援する機関、学生募集の要となる機関である。真摯に、誠実に仕事に向き合うことを心がけてきた。委員長をはじめとする委員の教職員に教示教えてもらいながら無事に勤めることができた。

社会貢献では、自身の研究成果を社会へ還元していくために依頼された内容に応えるよう努力した。

以 上